



# 札幌東高同窓会報

昭和50年8月

第2号

## 第65回 同窓会総会開かる

恒例の札幌東高校同窓会の第65回総会が昭和四十九年八月二三日に開催された。会場の札幌グランドホテルには三五〇名を超す会員と、多数の恩師のご出席を得て、盛大に催された。なつかしくも楽しい夕べであった。



同窓会々員各位には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は今春四月の人事異動で、前任地の名寄高校から、本校に転勤してまいりました。

明治、大正、昭和にわたる六十有余年の輝かしい伝統ある本校の責任者として、変動激しい社会に対応しながら、未来社会の定かならぬ状勢のもと、本校の經營を如何に進めるかを思うとき、その責務の重さを痛感し、決意も新たなるを覚ゆる次第であります。

顧みますに、昭和四十二年には創立六十年記念式典が盛大に挙行され、本校の歴史をお祝いしましたが、明後年は七十周年を迎えることになります。

一校の隆昌発展の過程には、意義ある時点において往昔を顧み、創業守成の偉業に当たられた先輩のご労苦を偲び、新たな歴史的決意を期することが大切であると思ひます。

故郷を離れて遠くなればなる程に思慕の念が強くなり、相寄る数が少くなればなる程に親密の度合いが深まるのが人間自然の情でありますが、同窓会とは昔を偲ぶ「懐しさ」という形のない感情が、母校を媒介として卒業生一人ひとりを結びつける集団とも言えましょう。この意味で「同窓会は情緒的集団である」と言つた或る同窓生の言葉は誠に至言であります。

同窓会名簿に旧友の名を、旧師の名をみて、青春時代の躍動を思い出し、懐旧の語らいの中から母校への援助、後輩への指導等が利害を超えて同窓会活動となるのではないでしようか。輝かしい伝統と歴史に、日一日の学校経営を通じて新しさを加え、更に母校の歴史に光彩を加えたいものと念願しておりますので、今後のご協力、ご支援をお願い申し上げ、新任のご挨拶いたします。



札幌東高等学校長  
ご挨拶  
高山秀丸

# 第65回同窓会総会仕事記

東高五期 久末祐輔

ある日、全く突然に佐伯副幹事長が訪ねてこられた。「今年はおたくの期が当番なのでよろしく。今迄東高五期の出席率が一番悪いのでしつかりやつてほしい」と半ば強迫的に引き受けさせられてしまつた。

確かに私自身卒業以来一度も、同窓会なるものに出席したこともないし、第一いつやつているのかさえ知らなかつたので「佐伯さんの言うこともつともだ。これは五期の恥になつてはいけないからガンバラなくちゃ」と人の好い僕チャンはすっかり乗せられてしまつた。

先ず、幹事会なるものに引っぱり出されても気がついたのが、そう言えば我が期にも常任幹事がいるはずで、何故に小生がノコノコ出てこなければいかんのかと、いささか遅かつたが藤田幹事長に質問してみた。

「え、菊地さんと多海本さんが登録されているのですが、まだ一度もお顔を拝見したことがないのですよ。」とのお答えさては計られたかと気がついたがあとの祭り。

そこで早速帰つて先ず菊地、多海本両氏に電話すると、「まあ協力してやるか

らしつかりやれよ」と激励され止むなく両氏を含む男性八人、女性二人の計十人に幹事を頼んで、五期の体制は整つた。これに高女十七期、東高二十四期の方々を含め総勢三十四人で出発することになつた。

さて昨年の例を見ても、総会迄にはなんだかんだで十回位は集つて色々と打合せをしなければならないようだが、何と言つても一番困つたのはこれだけの人数が長時間一堂に集つて安い経費で話し合える所はどこかと言う事である。さらには交通の便を考えるべく中心に近くしかも車で来る人もあるから駐車場が近くにあると言う条件を全部満足する場所は、となるとそう沢山はない。色々と捜した結果、パークホテルのロビーが最適だと言うことになった。しかもここは予約もきく。又とない恰好の場所である。それが小生はしばらくパークのロビーと言つてしまつた。もつとも後半は松尾会長の事務所を使わせてもらうことになつたので、会長初め事務所の女性の方々には大変な御迷惑をおかけしたが、経費其

とで意見が一致した。昨年の総会までの打合わせ議事録等を参考にしつつ予想以上に順調に進行した。ただ一番心配したのは当日の出席数である。これには毎年この経験から、会券販売数の八割に当日券を売り分約三十人と見ればだいたい当らずと言えど遠からずであると言うので今回の出席者数は三八〇人と見込んだのである。

處がいざふたをあけてみると当日券が一〇〇枚も売れて御承知のように大混乱を起してしまつた。何しろ会場は最大限四一〇人と言ふことだったので三〇人は余裕を見つめだつたのがそれよりさらに四〇人近くもオーバーしてしまい、我々幹事席も全て解放してもまだ足りない始末で本当に申し訳なかつたと思つてゐる。従つて幹事はどうう椅子に座ることも出来ずじまいであった。けれども何と言つても予想以上の出席者があつたので、「ああこれで赤字を出さずに済みそうだなあ」とホットしたと言うのが

正直に言つて偽らざる気持であつた。けれども何と言つても予想以上の出席者があつたので、「ああこれで赤字を出さずに済みそうだなあ」とホットしたと言うのが

正直に言つて偽らざる気持であつた。けれども何と言つても予想以上の出席者があつたので、「ああこれで赤字を出さずに済みそうだなあ」とホットしたと言うのが

さて会券、プログラムの様式及び懇親会の運営の方法等は、何しろ初めにも申し上げた通り、当番幹事はもろんの事総会にさえも出たことのない誠に頼りない幹事がほとんどなので、とても例年には新しい試み等を考え出す余裕は全くなく、ただひたすら例年通りで行こうと言うことで意見が一致した。昨年の総会までの打合わせ議事録等を参考にしつつ予想以上に順調に進行した。ただ一番心配したのは当日の出席数である。これには毎年この経験から、会券販売数の八割に当日券を売り分約三十人と見ればだいたい当らずと言えど遠からずであると言うので今回の出席者数は三八〇人と見込んだのである。

同窓生とは不思議なもので、今迄全く見ず知らずの他人であつても、それが同窓生であると言うだけで何とも言えぬ親近感があるのである。それが同窓会のよい所であり本来の姿であろう。

しかし同窓会にも大きな問題が二つある。一つは財政面であり他の一つは若い学生の頃、何かと可愛がつてもらつた手島三郎先輩に三〇年ぶりでお会いするところが出来て、なつかしくうれしかつた。同窓生とは不思議なもので、今迄全く見ず知らずの他人であつても、それが同窓生であると言うだけで何とも言えぬ親近感があるのである。それが同窓会のよい所であり本来の姿であろう。

同窓生とは不思議なもので、今迄全く見ず知らずの他人であつても、それが同窓生であると言うだけで何とも言えぬ親近感があるのである。それが同窓会のよい所であり本来の姿であろう。

人々に不人気と言ふことである。これは松尾会長、藤田幹事長始め執行部の方々が真剣に取組もうとしている問題である。その決断と実行力に大いに期待している。そして及ばずながら私共も東高同窓会発展の為に協力していこうではありませんか。

××

××

××

# 第三回同期会を終つて

高女一十五期

亀谷美津子



五年毎に同期会を開く事に決めて十五年目第三回を去る七月十二日午後、時計台前の丸惣ホテルを会場として、凡そ八十人の参加を得て催す事が出来ました。雨模様の肌寒い日にも拘らず遠く関西、東からの参加もあり、盛会裡に終える事

が出来、当番幹事としてホッと一息と言ふ所でしょうか。先生方の参加が思いの外に少なくそれぞれ御病気とか所用とか致し方のない事ではあっても残念に思っています。しかし松尾会長、藤田幹事長が御出席くださり会を盛り上げて頂けたのはお忙しい中を感謝しています。又北海道観光旅行の途中偶然立ち寄る事の出来た川北さんなどラッキーなハプニング

## 三 期 会

長井利峯

毎年一月例会、五〇名以上の出席にて盛会。当日次の会長幹事日程を決定、議事進行のテキパキさと二回会の過大さがこの会の特色と言える。常に八割を超える二次会参加であったが、今年は何と、二次会入数が本会のそれより増加という珍現象が生じた。

男女美女が特別過多のこの期は老師達をして、不安と恐怖に戦のかせたらしく、意外や知的な楽天家ばかりで、学校当局も我々という素材に恵まれ、初体験の共学制公立高校の今後の見通しに自信を持てたに違いない。我々にとつても、そうした経験と自負が今日、榮々として

二十有余年同期会を続け得る素地になっていることは事実である。

同期会は、我が不世出のノッポ I 君不世出の美女達 A B C 否不世出キャッチャ Y 君の名簿作りからスタート、薬屋の K 君ポンプ屋の Y 君義足屋の S 君等の努力により、最初の形が整い、以来その和氣相々さと結束力はすっかり評判となり、

その成果は一昨年の同窓会幹事期に大いに実のらせた。

数学の M さん化学の T さん、両恩師は毎年必ず御臨席を頂き、お二人共々嬉しき、いくこの会は最高だ、との御感想を毎回賜り、一同毎回気分を壮大有頂天と相

もあって中年と言われる年令も忘れてつい先頃卒業したようなそんな気分で旧交を暖め合つて時を忘れ、夜は各クラス会として定山渓まで遠征組や丸惣に泊り込み、市内各所のレストランなど各々プラ

に従つて心から楽しい会合を持つ事が出来たようです。卒業後初めてお会いする方や中にはもうおばあちゃんだと呼ばれる人も居て、どうしても名前と顔が一致せずそれでも結構楽しく語らつて、大人になつてからの友人では味わう事の出来ない気易さ、親しさを満喫する事が出来ました。しかし良い事ばかりではなく、どうしても連絡の取れない消息不明の人がある

スに相当する程居る事や住所は判つても連絡に何の応答もしてくれない人などかなりの数に考えさせられる事あります。折りにふれ住所などを確めてはいるものの、転勤の多い御主人をお持ちの方は連絡を取つて頂かなければどうして期が最優秀とか、遠く明治四十一年から続く我が同窓会の前途が思いやられる事です。所で我が同期会の方はおしゃべりの合間に討議して今後三年毎に会を持つよう議決して雨の上がった午後四時過ぎ散会しました。

成る次第であるが、御両人共、他の会では同様の御発言はあり得ない、考えられないと固く信じている。

東京支部は既に学生時代、三浦半島をハイキングしたり、御苑でコーラスをしたり、新宿の寿司屋で会費千円がとてもつらかつたり不世出の英才 I 君を中心二十名程毎年集っていた。その後は隆盛の一途を辿り、五次会が通例だそうで、信頼すべき筋（道警の I さん）の情報に依れば、深夜新宿を手をつないで練り歩き、更にはそのつなぎ方法は男女が交互であったと伝えられている。この報告は札幌本部上層部にかなり動搖をもたらし、東京へ行つて手をつなごう運動が今年から開始された。

## 同期会だより



旧札幌市立高女第四回卒業50周年記念祝賀同期会

昭和50年6月20日 於札幌パークホテル

# 卒業五十周年記念祝賀同期会

高女四期幹事

長尾貞子

札幌祭も過ぎて、百花爛漫風薫る六月  
廿日正午、懐しい母校跡パークホテル四  
階和室に於いて、待望の卒業五十周年記  
念祝賀同期会を開きました。  
この世に御縁があつて、乙女時代おさ  
げ髪で学窓を共にし、理想を抱き、勉学  
に、体育に、実技に、それぞれ励み、後  
藤嘉之校長先生率先の始業十分前静座は  
明治の人であつたからこそ、暑さ、寒さ

をものともせずに、あの運動場へござ敷  
いて、眞面目に実行した袴姿が思い出さ  
れ、本当に精神修養になつたと思ひます。  
私共は大正、昭和と半世紀を何と早く終  
る年月でしようか。その間それぞれに色々な人生を心強く生き抜いて来ました。  
人生の苦難に打ち克つということは並々  
ならぬことで、その間の社会は激動革  
を辿り、一分、一秒たりとも止む暇はない  
時代を過ごしています。

我が期は一六一名の卒業  
ですが、中退の北井澄さん  
と、石井ウメさんを加えて  
一六三名、その内亡くなられの方四四人、住所不名三  
五人、残りの八四人へ御案  
内して、三三人の出席でした。  
なかには出席通知があ  
りながら急に病で倒れた方  
又入院先から抜け出て来た  
方等、老人病にかかるい  
る方が多いので、今後は逢  
えたいかも知れない、と、無  
理を押しての出席等……や  
がて、はるけき陵線の彼方  
に落ち行く陽と共に、考  
えざるを得ない今日この頃  
です。……亡くなられた友  
四人の御冥福をお祈りし

れられません。十年立った今では、渡辺  
先生は御逝去、廣岡先生、一鷹先生、和  
田先生のお三人は御病氣で御無理との事  
に残念だと思って居りましたところ、堺  
市の東ふみ子さんから速達で、大津市に  
お住まいの山田（大橋）先生が飛行機で  
御一緒するかも知れないとの事で、早速  
御案内状を出しましたら、折り返し速達  
で、残念なことに留守居がない為、悪し  
くからずとのお返事を頂き、がっかりしま  
した。でもその文面が素晴らしいので、  
国語を教わった皆様へ、お読みしました。  
それから自己紹介をしながら、中華料理  
に舌つづみを打ち、とても楽しう御座  
いました。

結婚して数ヶ月で、赤ちゃんをお腹に  
御主人は戦死され、父親知らずで育て、  
今では立派に成長させた方、調定委員、  
民生委員、児童相談員、老人福祉員、等  
社会への異端者、謀叛人等は、一人もだ  
していない、誠に善良な人生を送られた  
方ばかりですので、高女四期生は誇りを  
持ちました。

予定時間三時過ぎても、名残を惜んで  
散在する同期を糾合して、第一回六期会  
(どんろく会)を開いてから、今秋11月  
の定例会で11回目の「どんろく会」とな  
る。名簿の完備については、どの期にお  
いても共通した悩みであろうが、六期も  
まだ2割弱の仲間が音信不通である。  
卒業以来、この作業を手がけるまでの10  
年という空白がいかに大きく、並々なら

て黙禱をささげました。

昭和四十一年十月十日四十周年祝賀同期  
会をロイヤルホテルに於いて開催した時

五人の先生をお迎え出来ました。感激は忘  
れられません。十年立った今では、渡辺

東高六期 齋藤八郎  
とんろく

東高校の現校舎が、昭和28年7月に一部完成した際、中島の旧校舎(今のパークホテルの位置)から真っ先に移転したのは、当時一年生の私たちであった。何もかもが不備な状況下での学校生活であったが、それがかえって新鮮で、自分たちが新しい学園造りをするんだという意欲と期待をもたせてくれたように記憶する。

ところが最近、その新校舎も老朽化が著しく、関係方面から校舎改築の陳情運動が起つていると聞く。

若いサラリーマンに「オジサン」と声をかけられ、女高生に乗物の座席を譲られるようになつたのも、まさに、むべなるかな——である。譲られた空席を横目でニラミつけながら、吊革にしがみついでいるのも、若さに対する最後の抵抗と言えようか。

さて、昭和41年春、卒業十周年を機に定例会で11回目の「どんろく会」とな

## 同期会だより

水溜が光るグラウンドに中秋の名月が全校生徒の真上で澄みきっていました。

昭和三十二年の学校祭終了時の光景です。

全校あげて、各種展示、演技、フォークダンス、ファイヤーストームで、若さと情熱をぶつけて、精一杯やった満足感とその終末の淋しさを同時に味わいながら小さな段上で話をしていた自分と、その周囲にいた、長瀬校長や先生方、友々の顔を想います。青春時代の想い出は、ごとごとくロマンに満ちています。

先日、学校の近辺を通りましたが、コンクリートとアスファルトの中で固く窮屈そうな環境に見えました。昭和三十二年頃は土と草の中にあり、周辺は広々とし、田圃の畔もありました。その中で七学級男子二八五人女子一二八人の四一三人が校庭をはみ出さんばかりに遊び遊んだものです。のびのびとして歩む足元も柔かく暖かな土と草の上でした。

当時は、日本も漸く戦後の混乱から立ち直り、その後の発展の基礎を築く時期にさしかかっていました。学校では特別教室の整備も進み、校舎周辺の植林、バッケネット設置、学友会館の設立と、や



### 第八期

## 川島大介

通りましたが、コンクリートとアスファルトの中で固く窮屈そうな環境に見えました。昭和三十二年頃は土と草の中にあり、周辺は広

りました。その中で七学級男子二八五人女子一二八人の四一三人が校庭をはみ出さんばかりに遊び遊んだものです。のびのびとして歩む足元も柔かく暖かな土と草の上でした。

当時は、日本も漸く戦後の混乱から立ち直り、その後の発展の基礎を築く時期にさしかかっていました。学校では特別教室の整備も進み、校舎周辺の植林、バッケネット設置、学友会館の設立と、や

## 土と草の中の学舎へのロマン

通りましたが、コンクリートとアスファルトの中で固く窮屈そうな環境に見えました。昭和三十二年頃は土と草の中にあり、周辺は広

りました。その中で七学級男子二八五人女子一二八人の四一三人が校庭をはみ出さんばかりに遊び遊んだものです。のびのびとして歩む足元も柔かく暖かな土と草の上でした。

当時は、日本も漸く戦後の混乱から立ち直り、その後の発展の基礎を築く時期にさしかかっていました。学校では特別教室の整備も進み、校舎周辺の植林、バッケネット設置、学友会館の設立と、や

はり細かい環境作りの時代でもあります。その後の社会環境の変化も著しく、現在同じ校舎で学んでいる後輩の皆さんのが生活はどのように変化しているのでしょうか。何となく高校生活は、昔の環境の方が恵まれていると考えるのは、年をとつた為だけでしょうか。

いずれにしても、生き生きと、のびのびした本当の教育の場が、東高校の校

活躍が「札東」と新聞に載ると、単純に我事として考えます。そんなところに、同窓会や同期会が、血縁的の社会集団として位置づけられる一面があると思います。

その面から、後輩に寄与し、母校に貢献するとともに、学生時代の仲間に会つて、青春のロマンに戻る事の意味は、殺伐とした現代社会にあって、明日の生活

に貴重なものとなります。

なります。

八期は同期会も行われていますが、現在有志が集つて企画中です。あの土と草の上で青春

の議論をした友競い合つた仲間と会いたい。それが生活の潤いともなり自分の真実の姿を見る時ともなります。

特に会誌を通じての交歓が楽しく懐しく、この会誌のために特志寄付を届けてくれる会員もおり、幹事としても張り切らざるを得ない。

8月25日に行なわれる第66回同窓会総会では、高女18期、東高25期と共に、私たちが当番幹事となつてゐる。

どの程度のことができるか不安だが、総会の成功を願つて、在札同期が中心となつて頑張っている。

同期会とは何か、同窓会とは——と、ものものしい理屈をつけたがる人もいるが、そんな意義づけをする必要は感じない。ただ単純に「懐しさの集まり」を大事にしたいと考えるだけである。

6期生が最後のひとりきりになつた時が、「とんろく会」の消滅の時だと信じているのである。

ぬ時間があつたかを思い知らされているのである。

「とんろく会」の運営は次のようになっている。

①とんろく札幌会（総会） 年1回、8月、11月を隔年で開催。

②とんろく東京会 毎年1月に開催。

③同期会誌「とんろく」の発行。 年1・2回。A5判12頁、活版印刷

④年会費 千円の徴収。 これが会誌、諸連絡、運営経費の財源となる。

⑤その他

親睦行事、名簿発行、慶弔に関する

ことなど。

特に会誌を通じての交歓が楽しく懐しく、この会誌のために特志寄付を届けてくれる会員もおり、幹事としても張り切らざるを得ない。

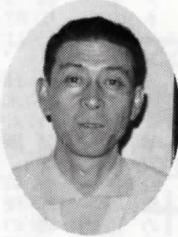
8月25日に行なわれる第66回同窓会総会では、高女18期、東高25期と共に、私たちが当番幹事となつてゐる。

どの程度のことができるか不安だが、総会の成功を願つて、在札同期が中心となつて頑張っている。

同期会とは何か、同窓会とは——と、ものものしい理屈をつけたがる人もいるが、そんな意義づけをする必要は感じない。ただ単純に「懐しさの集まり」を大事にしたいと考えるだけである。

6期生が最後のひとりきりになつた時が、「とんろく会」の消滅の時だと信じているのである。

# 高校生今昔



元東高教諭

前田孝利

(現札幌北高勤務)

◆ 私が初めて東高校の教員になった（昭和二十二年十一月）頃は、学友会の予算不足を補うため、年に何回か、りんごの袋はりを全校生徒で実施したものでした。九月に復員したばかりで髪の毛も満足にのびず（現在もまた同様なオツムの状態になりました）。戦時中の国民服が多いの服を着ていた私は、りんごの袋はりの監督が当たつて、四年生のクラスに参りましたところ、りんご園の「おにいさん」と間違われ大笑いしました。（そのときクラスでとった記念写真は今も大切

◆ 東高校発足の当時は、男子生徒の元気なことは、誠にたのもしい限りでした。市立高女時代からおられた女の先生方は、ずい分この元気さに泣かされたこ

に保存してあります）。おかげでりんごの袋はどのようにして作るものかよくわかり、今思えばとても貴重な経験をしたものと、なつかしく思い出されます。

当時の生徒にとつては、やりつけない仕事でつらく思つたこともあつたのでしょ

うが、見ていて誠に手ぎわよく、また楽しそうに作業が進み、勤労の尊さをかみしめながら意欲的に仕事をする彼女達をほんとうに美しく感じました。勿論美人揃いであったせいもあるでしょう。あれから約三十年、当時と比較して日本の経済事情も想像を超えた変化があり、価値観も大きく変化したせいか、どうも今の高校生は、一般的に働くことを避たがり、勤労という言葉の意味も理解しよう

とせず、アルバイトはもっぱら自分のレジャー費用をつくるためにのみという傾向です。私はそのこと自体をいけないことは思いません。情報伝達の量と方法が極端に多い現在ですから彼等の欲望もそれに比例して増大することに伴う問題ですから。しかし、奉仕という形をとる労働を極端に嫌う風潮はなんとかしなければならないと心配しています。大人の社会でも、同じような傾向が見られるこ

とを思えば、致し方のない現実なのでしょうか。

最近の高校で行なわれる学校祭は、ご覧になつている方も多いと思いますが、どうも單なるお祭りさわぎが目につきます。北海道神宮の祭典になると中島公園に並ぶ屋台を、そのまま学校内に持ち込んだようなもので、いわゆる模擬店と称する店をクラスやクラブごとに出して商売をする。もうけたお金は仮装行列の衣装や店の飾りつけに要した経費にて、残金は炊事遠足で飲み食いに使うというケースが多いようです。勿論、ステージ発表や討論会など、高校生らしい内容のものもありますが、どちらかと言えばそ

とが多かったようです。一例をあげますと、文化祭の食堂用に女子生徒と先生が社関係に寄附しようという意見も、自分達でもうけたお金だから、自分達で使つても悪いことではないという意見に押される場合が多いようです。（あるいは、これは私の勤務校だけの問題かもしれないが）現実的になったと言つてしまふと、おしるこは一人で欄間から廊下に飛び降りてどこかへ消えてしまつたといふわけです。勿論大きさぎのすえ、一件落着。展示の準備で徹夜の作業をした生徒達が空腹に耐えかねての所業。可愛いいことのいたずらと見逃すわけにもいかず、きついお灸をすえられた人達がいたと記憶しています。しかし、文化祭は盛大で、自分達が普段研究した内容の成果を親や一般の方々に見てもらおうといつぱいでした。



# 昭和四十九年度会務報告

幹事長 藤田昭治

岩城 弘侑（東高11期）新任  
7・18 母校改築のため、北海道庁関係部  
課へ、学校側、PTA、後援会と  
ともに陳情。（松尾会長、堀尾副幹事長出席）

同窓会の目的は、「会則の第二条に、『会員の親睦と母校の発展に寄与する』」とあります。

更に目的達成のための事業として、第九条に「総会の開催、会誌の発行、母校発展のための事業」等があげられています。

幹事会及び役員会としては、これらの事業の円滑な運営を図ることをモットーとして検討を加えてまいりました。

どうぞ、それぞれの事業が有意義に終始するよう会員各位の絶大なご協力をお願いする次第です。

## ◆ 昭和49年度の主な会議と行事

### 8・23 札幌グランドホテルで、第65回総会を開催、会員三五人が出席。

9・1 「第25回東高校祭」を見学。生徒会長らと懇談。（会長ら三役員出席）  
9・24 豊平区清田の学校林への視察調査に参加。会長ら三役員出席。

### 9・19 札幌市民会館で開催の昭和49年度卒業式に参列。卒業生

3・10 昭和49年度卒業式に参列。卒業生  
四五人。（堀尾副会長出席）  
5・23 恵愛ビルにて幹事会を開催、50名  
が出席。議題次のとおり。

◆ 同窓会の目的は、会則の第二条に、「会員の親睦と母校の発展に寄与する」とあります。

## ① 昭和49年度事業計画について

### ② 昭和49年度予算報告

### ③ 第66回総会の開催について

### ④ 役員改選に關すること

### 会長、幹事長ほか役員の任期が、昭和50年7月31日までとなつて

るので、次期役員の選出につき協議、選考委員5名（委員長吉中新太郎一東一期）を定め選出するこ

とに決定。

6・5 北海道会館にて、高山新校長、松田、深尾教頭、片岡事務長と松尾会長ほか7役員とが懇談。

### 6・20 恵愛ビルにて幹事会。出席48名。

### 議題次のとおり

### ① 第66回総会開催について

### ② 会員名簿編集に關すること

### ③ 学校祭参加事業について審議し準備委員を選出。

### ④ 同窓会の入会費について

### ⑤ 新役員の選考結果が久末選考委員から発表があり承認された。

### 左記のとおり

### 会長 松尾 静江（高女24期）留任

### 副会長 堀尾 トモ（高女20期）

### 幹事長 藤田 昭治（東高1期）

### 副幹事長伊坂 郁子（高女23期）

### 佐伯 昌夫（東高6期）

◆ 学校祭への参加について

母校在学生に對して同窓会の意義の理解を深めること。更に在校生との親父を深める、などを目的として、学校祭に参加することになりました。

昭和50年度の第26回学校祭は、8月29日から31日まで母校で行なわれます。

参加については、各期から委員を選出して、学校祭参加委員会（委員長岩城弘侑一東11期）を設置し、現在その内容について検討中ですが、会員でお手伝いただける方、ご協力をお願いします。

◆ 会員名簿の発行

懸案の同窓会名簿を今年度中に発行する予定になっています。前回発行は昭和46年ですが、内容はかなりの不備が目につきます。

当時としても、編集委員各位に、並々ならぬご苦労をおかけしていますが、今

46年ですが、内容はかなりの不備が目に

つきます。

これは、昨年8月の総会において審議さ

れ、昭和49年度から徴収することに決定

したものです。同窓会の事業運営費は、

毎年入会する新卒業生の入会費（一人五〇〇円）をもって賄われてきましたが、

昨今の経済状勢から、これだけでは同窓会活動も十分できず苦慮していたところ

です。そのため財政の問題については長時間に亘って種々論議が重ねられ、しかも他校の状況も考慮した上で、年会費制度を新設した次第です。

（委員長佐伯昌夫一東6期）を設置し、

锐意検討を重ねていますが、なんと言つても会員各位の協力が必要です。

従つて、各期から名簿作成委員を選出し

ていたとき、各クラスごとに最も新しい確実な住所、勤務先などを把握していた

だきたいと思います。詳しく述べ、後日そ  
のための会合を開く予定ですので、絶大  
なご協力をお願いいたします。

## ◆ 同期会開催に対する助成について

### 初めての同期会を開催すべく名簿を作成する期に対し、費用の一部（連絡通信費として）を同窓会で助成することにしました。

今回の同窓会名簿を作成するのを機に各期各クラスで名簿を整備してください。助成金は僅少ですが、趣旨をご理解の上効果的にご活用ください。

## ◆ 同期会開催に対する助成について

### 初めての同期会を開催すべく名簿を作成する期に対し、費用の一部（連絡通信費として）を同窓会で助成することにしました。

各期各クラスで名簿を作成してください。助成金は僅少ですが、趣旨をご理解の上効果的にご活用ください。

## ◆ 年会費の徴収について

### 同窓会は、毎年年会費として五〇〇円を納入していただくことになっています。

これは、昨年8月の総会において審議され、昭和49年度から徴収することに決定

したものです。同窓会の事業運営費は、

毎年入会する新卒業生の入会費（一人五〇〇円）をもって賄われてきましたが、

昨今の経済状勢から、これだけでは同窓会活動も十分できず苦慮していたところ

です。そのため財政の問題については長

時間に亘って種々論議が重ねられ、しか

も他校の状況も考慮した上で、年会費制

度を新設した次第です。

（委員長佐伯昌夫一東6期）を設置し、

锐意検討を重ねていますが、なんと言つても会員各位の協力が必要です。

従つて、各期から名簿作成委員を選出し

ていたとき、各クラスごとに最も新しい確実な住所、勤務先などを把握していた

番 又は拓銀飯店、札幌東支店に口座を設けてありますのでご利用ください。